

夢を紡ぎて

上田市立長小学校

学校だより

令和2年9月11日

8月20日(木)、二学期が始まりました。

始業式はTV放送で行い、2年生3名と4年生が「2学期の目標」を発表しました。

校長からは、「水滴石穿(すいてきせきせん)」という言葉から、「一年で一番長い2学期がスタートしました。一つ一つの努力は小さいことでも、いつか大きな力となります。」というお話がありました。(水滴とは、一滴の水のこと。石穿とは、石に穴を開けること。一滴一滴の小さな水滴も、長い間には固い石に穴を開けることができる。「水滴石穿」という言葉は、わずかな力でも積み重ねると非常に大きな力を発揮すること。)

2学期は、88日間です。音楽発表会、社会見学、長小オリンピック等今までと違った行事が待っています。自分の目標に向かって、少しずつ努力を重ね、大きな成果となるよう、子ども達を応援していきたいと考えています。



夢中になって

今年の夏は暑く、9月になってもなかなか涼しくならず、新型コロナウイルス感染予防と熱中症予防、なかなか思うように活動を進めていくことができずにいました。

その中、子ども達が夢中になって活動ができるように、学習を楽しめるようにと授業を工夫しています。この状況だからこそ、子ども達が思いっきり自分の考えや思いを表現して、そのことを力一杯楽しんでほしいと考えています。

新学習指導要領では、これからの予測のつかない時代を自分の力で生きていく子どもを目指し、必要な力をつけていくことが示されています。長小の教育目標の「たくましく」も自分で考え判断し行動するねばり強い子どもの育成を目指しています。まさに今、手探りですが、そこに向かった学習を考えていかななくてはならないと取り組んでいます。そして、子ども達がわくわくした気持ちで登校できるように努めています。

2年生 図工 「しんぶんしとなかよくなるろう」

教室と廊下一杯に新聞紙が広がっていました。新聞紙の下には、机があって家になっていました。「これは何？」と驚きましたが、子ども達の姿を見ているとわくわくしてきました。



子ども達は、新聞紙で自分の作り

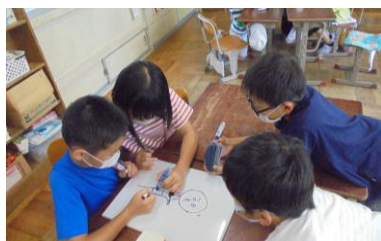
たいものややりたいものを思いっきり作っていました。一枚一枚の新聞紙や切れ端には、子ども達の思いが一杯詰まっていました。いつも目にする新聞紙は、子ども達の“友達・新聞紙”になっていました。

大胆な活動の中に、たくさんの子どもの思いが詰まっていました。そして、子ども達の姿の中に、たくましさを感じました。

4年生 長っこ（総合的な学習の時間） 「鳥よけ作り」

米作りの学習に取り組んでいる4、5年生。夏休み後に田んぼを見に行ったら、稲の先に何かができている。「鳥に食べられたら困る。」ということで、5年生はかかし作りを、4年生は、鳥よけ作りに取り組みました。

どんな鳥よけを作ろうかと、ホワイトボードに考えを書き、必要なものを自分たちで用意し、頭を寄せ合いながら相談し、鳥よけ道具を作っていました。



友達と考えを伝え合うことで、気がつかなかったことに気がついたり、意見の対立で我慢をしたり、自分の考えを修正したり、自分たちのお米が育つようにと願いに向かって取り組む姿は、やっぱりたくましかったです。

「何々のためにはこうしよう。」と、今必要とされる論理的に物事を考える考え方も自然とできてきます。

各学年、少しずつ活動が展開されてきています。これからが楽しみです。

新型コロナウイルス感染症対応から

○6学年 県外への修学旅行を中止

時期・方面等今後の状況を見ながら、県内・日帰り等形を変えながら実施の方向を考えていきます。

○音楽会を音楽発表会へ 10/2(金)

今年度は、音楽会を、新型コロナウイルス感染症予防のため、時間短縮と参加者を縮小して「音楽発表会」として実施いたします。

三密を避けるために、参加者を縮小し、ご来賓の皆様の参観を見合わせていただき、各ご家庭の参観者も1名とさせていただきます。楽しみにしていच्छやったことと思いますが、どうかご理解をお願いいたします。

○新型コロナウイルス感染症に関する差別や偏見をなくしましょう。

新しい生活様式となって、マスクを着用するようになりました。その中で、こんな話を聞くようになりました。「新型コロナウイルスに感染しないようにマスクを着用していたはずが、いつの間にか、他者の視線を気にしたり、何か言われたりするのではないかと不安や恐れ of 感情を持つようになった。逆にマスクをしていなかったり咳をしていたりする人を“どうして?”という気持ちで見してしまうことがある。」と。

新型コロナウイルス感染症は、ウイルスによって体が病気になる感染症であると共に、「不安や恐れ」「差別」という心の感染症であるとも言えます。

今、私たち大人は、子ども達を目の前にして、何をしなくてはいけないのかを考えなくてはいけないのではないかと思います。これからの社会で活躍する子ども達を不安にさせないためにも、今こそ、しっかりと人権感覚を高めていく必要があると感じています。

そのために、新型コロナウイルスに感染した方、治療に当たっている医療関係者や社会機能の維持に当たる方とその家族、外国人に対して、不当な差別や偏見、いじめ、SNS等での誹謗中傷があつてはいけないことと、心を強くしていくことの大切さを皆で共有していきましょう。そして、偏見や差別的な言動に惑わされず、確かな情報に基づき、冷静に行動をしていきましょう。

すべては、自分はもちろん、子ども達や地域、社会のために。